

# 複合経営の安定化と担い手を核とした地域農業の振興

～ A.N.M (A)新しい(N)西美唄を(M)盛り上げよう ～

課題番号4

対象：美唄市西美唄地域（19戸）

## 1 活動の背景

西美唄地域の概要

水稲、小麦、大豆が主体に複合経営  
 経営規模：18.8ha/戸  
 経営主年齢：平均53歳（令和2年）  
 米麦営農組合（共同）：  
 西美唄米麦、元村米麦、アグリ山形

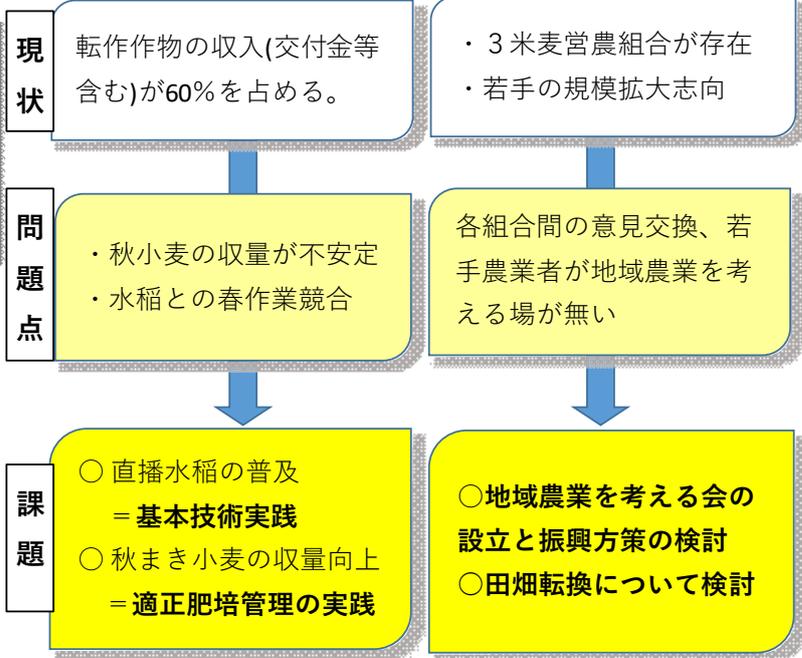
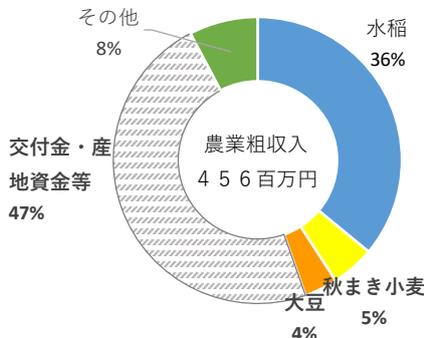


図1 R2年西美唄地域の農業粗収入

## 2 活動の経過

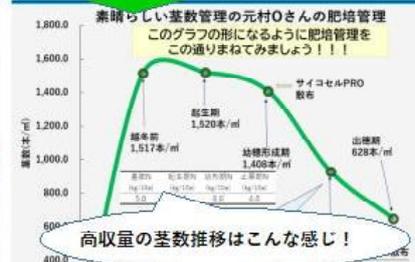
(1) 推進事項：直播水稲基本技術の実践

### 🔧 苗立数を確保する基本技術(排水対策、ほ場の碎土)及び除草技術の提案



(2) 推進事項：秋まき小麦の適正肥培管理

### 🔧 生育に応じた追肥技術、土壌pH改善の提案及び作付体系改善に向けた雑草調査



### (3) 推進事項：担い手による地域農業の振興

## 「西美唄農業を考える会」における輪作体系の検討

#### 基盤整備後の輪作体系について視察



輪作によって直播水稲収量  
1 t/10aも実現可能！

#### 水田輪作に関するアンケート、聞き取り実施



基盤整備終了後は乾  
田直播を導入するよ

#### 今後の土地利用を可視化



QGISを利用した  
ほ場地図の作成

## 3 成果の具体的内容

### (1) 直播水稲基本技術の実践

**◎ 基本技術を9戸が全項目実践  
10戸が7項目以上実践**

↓

- 7戸が目標の苗立数を確保
- 9戸が600kg/10a以上の収量

直播水稲基本技術の実践状況（11戸）

推進技術		A	B	C	D	E	H	I	K	N	O	Q
ほ場整備	額縁明き・簡易耕起等	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
は種床作り	表土均平	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	砕土率	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	▲	○
適期適量は種	は種量・は種日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
全項目実施農家		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※砕土率：20mm未満土塊 △60～69%、○70%以上												
※は種量：10～12kg/10a												
※は種日：5月13日まで												
推進技術		A	B	C	D	E	H	I	K	N	O	Q
苗立本数	目標比	○	×	○	×	○	×	×	○	○	○	○
収量		◎	◎	×	○	◎	×	×	◎	◎	◎	◎
※苗立数(本/m <sup>2</sup> )		○：150～250		×		×：～150						
※穂数(本/m <sup>2</sup> )		◎：700～900		○：900～1,000		×		×：～700				
※収量(600kg/10a)		◎：106%～		○：95～105%		×		×：～94%				

### (2) 秋まき小麦の適正肥培管理

**◎ 適正肥培管理  
5戸が実践**

↓

- JA平均と同等以上の収量  
6戸

適期適量追肥、pH改善の実践状況（16戸）

推進技術		A	B	C	E	G	H	I	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
起生期*2	適期追肥	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○	●	●	○	●	○	○
	適量追肥	多	○	多	多	●	多	多	少	●	多	●	●	○	●	多	多
幼穂形成期*2	適期追肥	○	○	遅	○	●	○	○	×	●	○	●	●	○	●	○	○
	適量追肥	○	少	多	多	●	多	○	×	●	多	●	●	○	●	○	○
止葉期*2	適期追肥	○	○	×	○	●	×	×	×	●	○	●	●	○	○	×	×
	適量追肥	○	○	○	○	●	多	○	×	●	多	●	●	○	●	○	○
収量*4 (JA平均対比)		×	×	○	×	◎	×	×	×	◎	×	◎	◎	×	◎	×	×

\*1 土壌pH適正化の評価方法。○：実施、空欄：未実施  
 \*2 各推進技術評価方法。○：適期、適量 早：早い 遅：遅い 少：少ない 多：多い 空欄：追肥不可  
 \*3 穂数の評価方法。目標(650～700本/m<sup>2</sup>)に対し、○：適正 少：少ない 多：多い  
 \*4 収量の評価方法。JA平均に対し、◎：106%～ ○：95～105% ×：～94%

### (3) 担い手による地域農業の振興

**◎ 「西美唄の農業を考える会」  
今後の水田活用を検討**

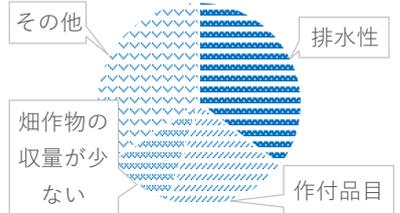
↓

- 水稲は輪作の1つとして畑作物を輪作したい。
- 田畑輪換の不安事項  
水田から畑作→排水対策  
畑作から水田→均平

6年間（H30～R7）の水田活用を一覧表に

輪作体系を考えるきっかけになった。

水稲あと畑作物での問題点は「排水性」



輪作に関するアンケート結果

## 4 今後の課題と対応

- (1) 直播水稲と秋まき小麦の技術改善、定着への支援を継続する。
- (2) 輪作を行う上での問題点（排水対策、均平）について地域の事例を収集、情報共有を図る。